

事例研究報告

特別支援学校高等部生徒に対する
ポジティブな自己管理の指導
～できることをずっと続ける～

生徒の実態

- ・ 高等部 自閉症スペクトラム障がい，認知発達的には少々遅れがある。
- ・ 挨拶は率先してすることができる。
- ・ 得意なことには集中できるが，指示を最後まで聞かずに行動してしまうことがある（過集中と注意散漫の傾向が見られる）。
- ・ 片付けが苦手である。
- ・ 物欲が強く，欲しい物があれば手に入れるまで執拗にねだることがある。
- ・ 自己管理をすることが難しい（間食や睡眠のコントロールが難しい）。
- ・ 危険認知力が低く，勢いで行動してしまうことが多い。
- ・ イライラしたときに不適切行動をとることがある。
- ・ 計算が得意で，ゲームが好きである。

保護者の願い

身の回りの片付けやお金等の自己管理ができるようになって欲しい。

教員の願い

自己選択・自己決定により，本人が納得した上で行動したことを，周囲から認められることで，自信や意欲を高め，結果として自己管理する力を高めてほしい。

コンサルまでの取組

「学校と家庭で1つずつ仕事をする」

- できることを続けてできるように簡単な目標から開始した。
- 学校と家庭の両方で仕事ができたら1ポイントとした。
- 10ポイントでご褒美の「できた券」（バドミントンや卓球ができる等）をもらえるようにした。



（結果）

- ご褒美がたまっても使うことがなく，働くことにも結びつきにくかった。
- 放課後や休日の過ごし方が自宅，祖母宅と分かれており，家事労働の把握が難しかった。
- 生徒本人にやらされ感（「やれと言われたから…」）を強く抱かせた。

今後，**ポジティブに働く**ためにどうすれば良いのか

アドバイザーからの助言

①トークン

- (1) 標的行動を細かく分け、トークンの対象行動を増やす。
- (2) ポイントの数は多ければ多いほどよい。
- (3) バックアップ強化子（トークンと交換できるお金or物）を準備する。
- (4) バックアップ強化子を交換するタイミングに注意する。
- (5) 記録用紙に手続きの結果を記録する。

②セルフコントロール力

- (1) 片付けの習慣化(初めはトークン付きで楽しく)を図る。
- (2) 生活リズム（「〇時までには△△ができる」等具体的な時間表示）を整えるように図る。

③指導上の注意事項

- (1) 必ず本人に説明（自分で意思表示）する。
- (2) 交渉の余地を残すように配慮する。

助言を受けての見直し

- ①－ 1 トークンエコノミーシステムの変更
本人・保護者・担任の三者で面談を実施し，家庭での家事労働の内容や報酬単価等について話し合いをする。
- ①－ 2 記録用紙を簡略化
家事労働のみ記録（内容・数）し，金額を表示する。
- ②－ 1 登下校時に担任とともにロッカーや机の中を確認する。
- ②－ 2 手帳に就寝・起床時間を保護者が記録し，担任と確認をする。

※指導上の注意事項として，必ず本人に説明（自分で意思表示）し，交渉の余地を残すとともに本人が納得して取り組むことにした。

ベースライン (BL)

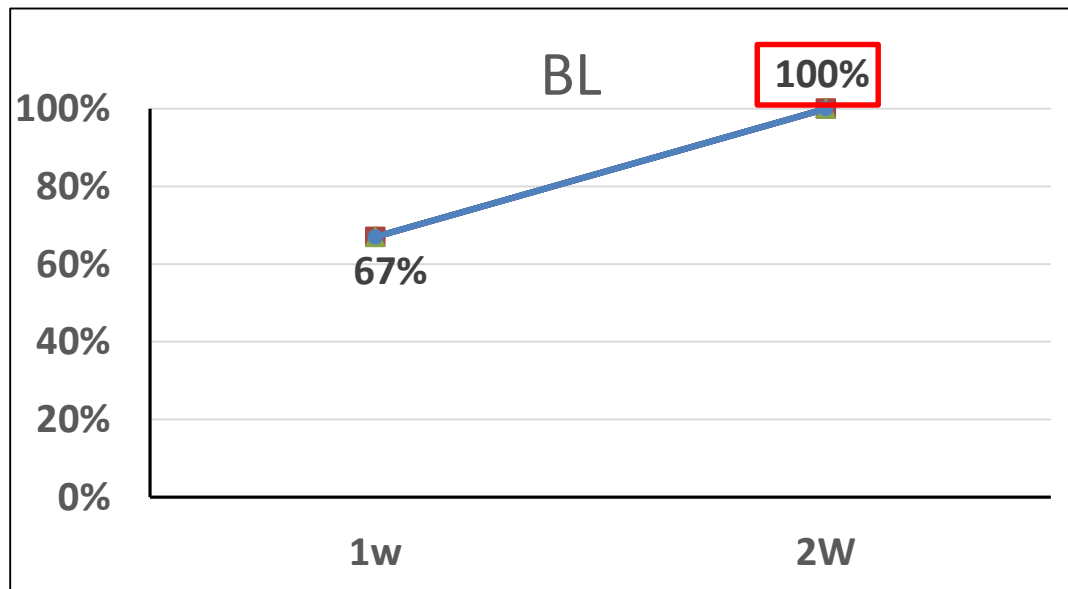
期間：9月1日～9月14日

【標的行動】 自宅で家事労働（仕事）をする。

【手続き】 記録用紙に家庭でした家事労働を記入し単価表から行った数だけ報酬をもらうようにする。

(評価基準) 家庭で家事労働ができた . . . 1
家庭で家事労働ができなかった . . . 0
(達成基準) 5日連続でできたときに達成とする。

【結果】 9月8日から9月12日で連続5日間1点獲得し、達成した。



1W：9月1日～7日
2W：9月8日～14日

(W=Week)

介入Ⅰ(達成基準の変更)

期間：9月15日～10月12日

【標的行動】 自宅で家事労働（仕事）をする。

【手続】 家庭で家事労働を行った数だけ報酬をもらう。

- ・ 帰宅後の家事労働の確保
- ・ 祖母宅からの帰宅時間の確認
- ・ 家事労働の内容の再検討と単価の設定

○達成基準の変更

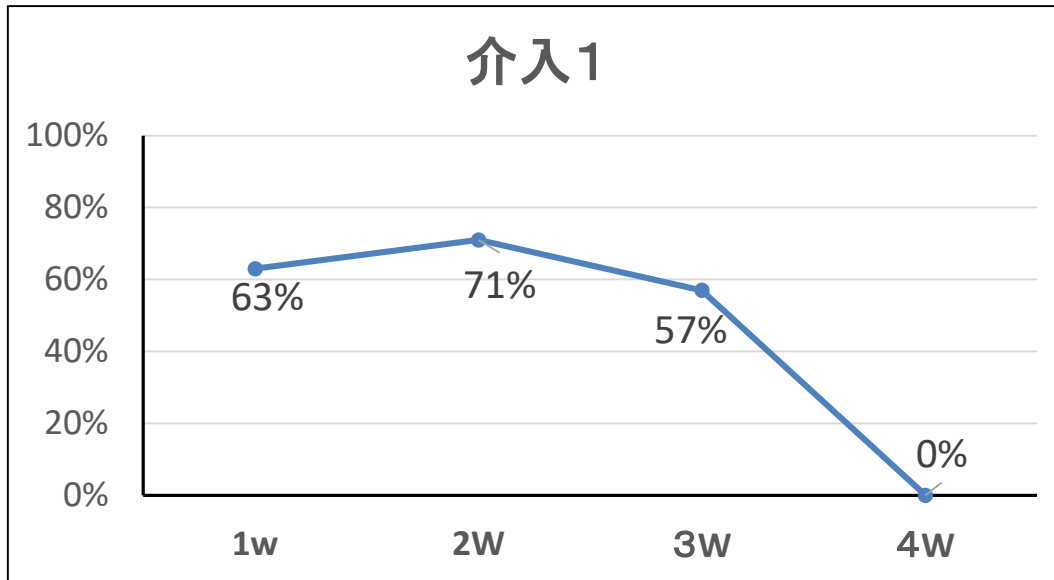
【目標】 自宅で家事労働（仕事）をする。

(評価基準) 自宅で家事労働ができた . . . 1
自宅で家事労働ができなかった . . . 0

(達成基準) 7日連続でできたときに達成とする。

結果と改善策

【結果】 連続7日達成ならず



1W : 9月15日～21日
2W : 9月22日～28日
3W : 9月29日～10月5日
4W : 10月6日～10月12日

【結果から】

- ・ 下校後は祖母宅で過ごし、夜に自宅に戻るため、家事労働が無い。
- ・ 週末は祖母宅で泊まっている（自宅での家事労働のみ収入となるため収入ゼロ）。
- ・ 4Wは副収入（スマホでのポイント獲得等）を得たため、働く必要が無かった。
- ・ 1週間毎日仕事をする事は「働く」ことにつながりにくい。

【改善点】

- ・ 労働と報酬について再度確認をする。
- ・ 家事労働の条件を本人が納得できる条件に再設定する。

介入2 (達成基準の変更)

期間：10月21日～11月28日

【標的行動】 自宅で家事労働（仕事）をする。

【手続き】 家庭で家事労働を行った数だけ報酬をもらう。

- ・ 本人が納得して取り組める労働条件にする。
- ・ 副収入（スマホでのポイント獲得等）のデメリットを伝える。
- ・ 保護者に協力依頼（仕事を残してもらう）する。

○達成基準の変更

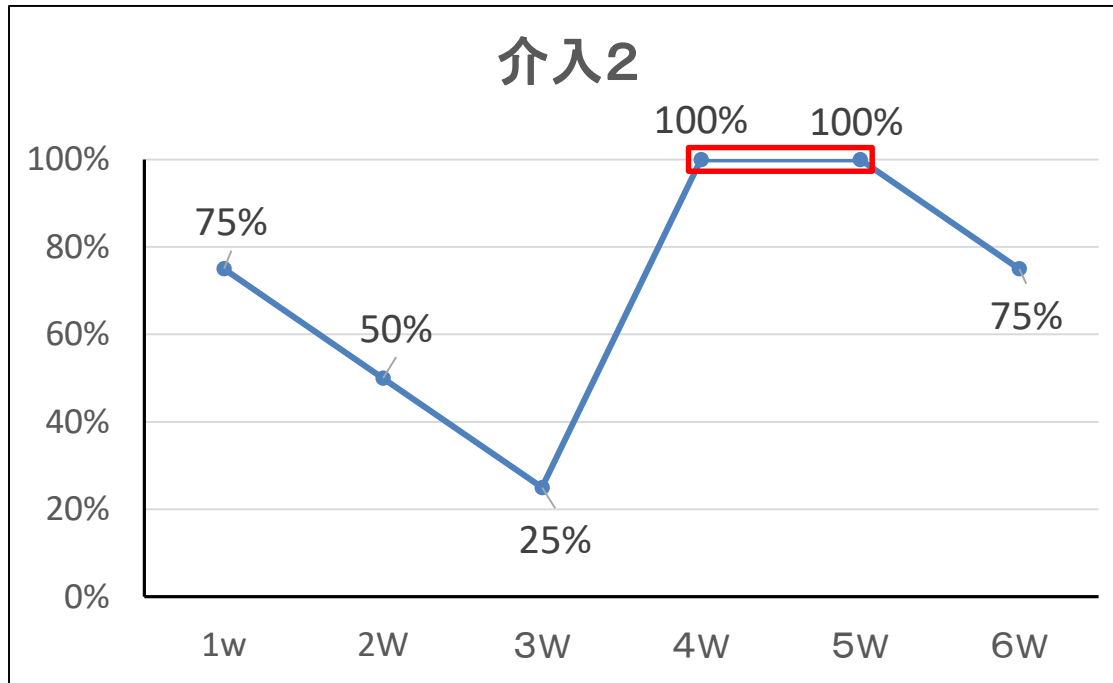
【目標】 自宅で家事労働（仕事）をする。

(評価基準) 自宅で家事労働ができた . . . 1
自宅で家事労働ができなかった . . . 0

(達成基準) 月～木曜日まで2週連続でできたときに達成とする。

結果と課題

【結果】 11月11日～14日, 18日～21日で **2週連続達成**



1W : 10月21日～24日
2W : 10月28日～31日
3W : 11月4日～7日
4W : 11月11日～14日
5W : 11月18日～21日
6W : 11月25日～28日

【結果から】

- ・ 4W,5Wで連続で達成することができた。
- ・ 祖母宅からの帰宅時間を本人と決めたことで, 帰宅後も家事労働ができた。
- ・ 修学旅行後, 現場実習前で働く気持ちの切り替えができ, 意欲につながった。

【課題】

- ・ 欲しい物があるときは家庭内でトラブルになることが多く, 家事労働できないことがあった。
- ・ 副収入があり, 貯金があれば家事労働をしないことがあった。

指導の成果

- 無理なく取り組める仕事の選択肢を設定し、交渉により本人が自己選択・自己決定することで、納得して家事労働に取り組むことができるようになった。
- 記録用紙の記入を家庭に依頼することで、家庭での様子を知ることができた。
- 生徒本人の「やらされている」から「やってみよう」という意識は芽生えつつある。

ここが成功のポイント！

本人が納得して取り組めるように「交渉の場」を設定する。

〈交渉での注意点〉

- ① 選択肢は多く、選択は自由にする。
- ② 否定的な指摘をしない。
(「できてない！」はNGワード)
- ③ 細かなことでもできたことを必ず称賛する。
- ④ ポジティブな後押しを心がける。
(「やってみよう」という前向きな提案)